

# 鳥海イヌワシみらい館通信

Vol. 5 2013 新年号

発行：猛禽類保護センター（愛称：鳥海イヌワシみらい館）

〒999-8207 山形県酒田市草津字湯ノ台 71-1 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683  
http://www.raptor-c.com E-Mail:moukin@raptor-c.com



「ケアシノスリ」撮影：アクティングレングジャー 長船裕紀



ケアシノスリは冬にやってくる中型のワシタカの仲間です。夏場はユーラシア大陸の北部に生息し、冬になるとほとんどが大陸南部や、アメリカ大陸へ渡りますが、そのうちのわずかが日本にも渡ってくる冬鳥で、日本海側での記録が多数を占めています。11月17日、酒田市のとなり、三川町の水田に飛来しているケアシノスリに遭遇しました。落ち穂をむさぼるハクチョウたちの群れの中、畦道に降り立って周りの様子をうかがっているようです。日本に留鳥として生息するノスリとの見分けが難しいのですが、比較してその白さと腹部の黒い腹巻き模様のコントラストや範囲の違いが識別のポイントになります。またその名の通り足の跗蹠に毛が生えていることも特徴です。雪のようなハクチョウの白さは言わずとも美しい冬の風物ですが、ケアシノスリの白と黒のコントラストにも冬の訪れを感じる長船です。



## ～バードウォッチングへの誘い～ 第5回 冬はワシ・タカ類の季節



寒い東北地方の冬。しかし、世界にはもっと寒い所があります。シベリアや極東ロシアなどの北極圏に近い地方では、最低気温が-40℃にも達し、水辺は結氷したり流水で閉ざされる氷の世界です。そんな地域に生息しているワシタカの仲間達は、エサとする魚が捕れなくなったり、水鳥が南下するのを追うようにして日本に渡ってきます。冬でしか見られない魅力的なワシタカ達に会いに、野鳥観察に出かけてみませんか？

(絵：普及啓発担当 本間)

### 「チュウヒ」

大きさ：ハシブトカラスと同じくらい  
ヨシ原の上をすれすれに飛行するチュウヒは、主に北日本でも繁殖しますが、冬になると南下して各地のヨシ原にて越冬します。



### 「ハイロチュウヒ」

大きさ：ハシボソカラスと同じくらい  
冬に日本のヨシ原や水田地帯に渡って来るチュウヒの仲間で、オスは美しい灰色をしていることからこの和名がつけました。



### 「コミミスク」

大きさ：カラスと同じくらい  
夜行性の猛禽類であるフクロウの仲間で、冬鳥として大陸から渡来します。ヨシ原などで見ることができます。



### 「ケアシノスリ」

大きさ：ハシブトガラスと同じくらい  
ノスリに比べ白が際だっており、黒い体の模様とのコントラストがはっきりしています。名前の通り足に毛が生えています。



### 「コチョウゲンボウ」

大きさ：キジバトと同じくらい  
小型のハヤブサの仲間です。オスは体の上面の青みがかった色と、下面のオレンジ色という鮮やかな体色をしています。全国の農耕地、干拓地、野原など開けた場所に渡来します。

## イヌワシってどんなワシ？④「イヌワシと天狗」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシってなに？と思う人や図鑑でしかイヌワシを見たことがない人もいます。そこでシリーズ4回目は「イヌワシと天狗」の関係について紹介します。

日本には妖怪や物の怪の伝説が多く残っています。それらの多くが自然や生物などから派生して生まれた物なのですが、その中の一つで現在でも各地に「天狗伝説」として語り継がれている天狗。実はイヌワシが天狗のモデルかもしれないって知ってました？天狗の顔はぎょろっとした鋭い目と、赤い顔、長い鼻がトレードマークです。比べてイヌワシも眼光鋭く、天狗の鼻のように立派なクチバシ、褐色の羽毛は日が当たれば赤くも見てとれることも。さらに大きなツメと空を飛ぶ翼はそれぞれ高下駄と葉団扇に見立てられ、よく知られる天狗のイメージになっています。また天狗の多くが山伏の出で立ちで出てきますが、これも山間部にすむイヌワシと山岳信仰の融合したものではないでしょうか。烏天狗という妖怪も、イヌワシ（大天狗）にモビングしながら後を追いかけて飛ぶカラスから生まれたのではないかと考えることもできます。さらにはイヌワシの漢字表記は「狗鷲」が一般的に使われます。「天狗」と「狗鷲」これは偶然の一致ではないはず！「天狗伝説」や「天狗」という地名が残るあなたの町にイヌワシは生息していませんか？今はいなくとも、その昔、天狗としてそこに住んでいたのかもしれないね。



天狗とイヌワシ。似ているかも？



## イヌワシが見られる動物園④「いしかわ動物園」



「イヌワシを見てみたい!」けれども野生のイヌワシに出会うことはなかなかむずかしいものです。確実にイヌワシの姿を見てみたい人や、間近にイヌワシを見てみたい人は動物園に行ってみましょう。第4回目は、石川県「いしかわ動物園」です。飼育展示課の竹田伸一さんへ伺いました。

Q. いしかわ動物園ではいつからイヌワシを飼育しているのですか。

「2007年の5月から飼育を開始しました。」

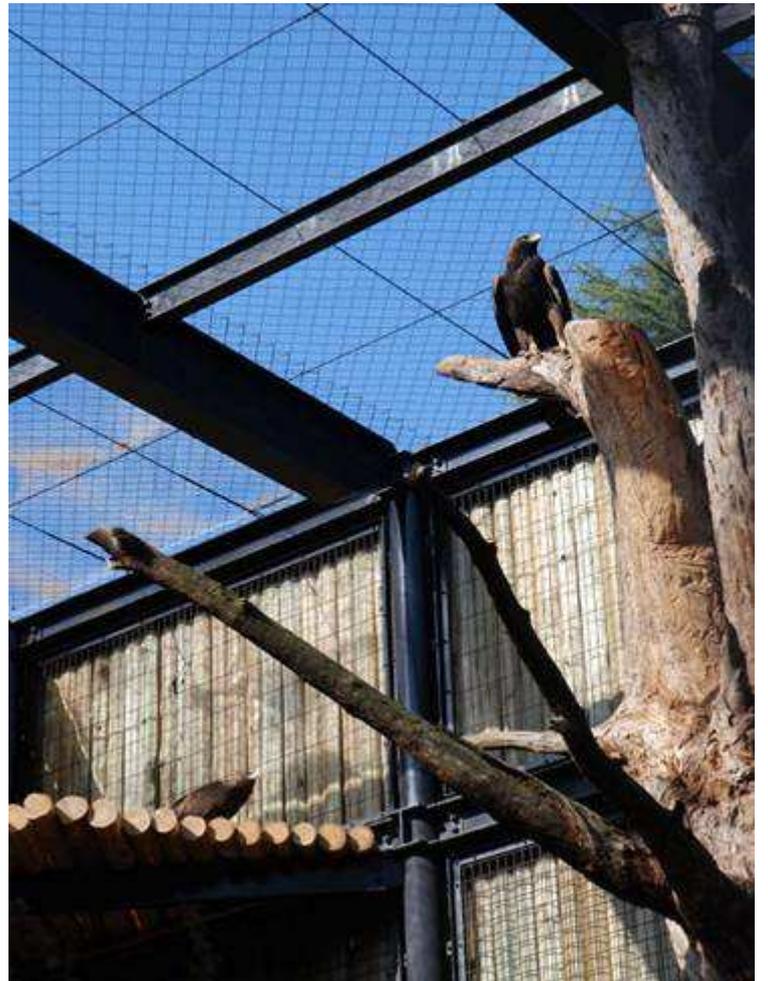
Q. 現在飼育中のイヌワシについて教えてください。  
『白山(はくさん)』(♂:6歳)と『手取(てどり)』(♀:6歳)の2羽を飼育しています。」

Q. 苦労されていることは何ですか？  
「ケージ内で作業する時に刺激しないことです。飛び回ってぶつからないように気を遣います。」

Q. いしかわ動物園でのイヌワシ飼育の特徴は何ですか？  
「飼育ケージの前面をガラス張りの観察小屋にしてあります。見上げる形ですが、迫力のある姿が間近に見えます。」

Q. 飼育員さんが思うイヌワシの魅力について教えてください。  
「大きな体と迫力のある顔、特に目ですね。」

Q. 来場される方に一言お願いします。  
「この大きな鳥がいつまでも日本の山で暮らしているように、山の自然を守っていきましょう。」



石川県はイヌワシを県鳥として指定しています。いしかわ動物園では、イヌワシが石川県のシンボルである白山(標高 2,702m)に生息する鳥であることや、イヌワシを守ることは白山の自然を守ることに繋がることがわかりやすく説明しています。また猛禽類保護センターと同じ野生生物保護センターで最近話題となっている、佐渡トキ保護センターの分散飼育施設として、トキ飼育繁殖センターを園内に設置して飼育繁殖も行っています(非公開)。いしかわ動物園のモットーは人にやさしい、動物にやさしい、環境にやさしい、の三つのやさしさを基本に、「楽しく遊び学べる動物園」を目指しており、「ナイトズー」や「ふれあい祭り」など楽しい企画も盛りだくさんです。石川県に訪れた際には家族で楽しめる「いしかわ動物園」にぜひ足を運んでみてください。

### いしかわ動物園

〒923-1222 石川県能美市徳山町 600 番地  
TEL 0761-51-8500

開園時間：11月～3月・・・9:00～16:30  
4月～10月・・・9:00～17:00  
(ただし入園は閉園の30分前まで)

入園料：一般 810 円  
3歳以上中学生以下 400 円

休園日：毎週火曜日



※路線バスも運行していますので詳しくはホームページにてご確認ください。

# 地域のいきもの情報ボード

「地域のいきもの情報ボード」とは、鳥海イヌワシみらい館入り口正面に設置された専用ホワイトボードに、当館職員や来館者から寄せられたいきもの情報を集めて掲示しているものです。どなたでもご自由にプリントして、貼り付けることができますので、是非ご来館の際は情報をお寄せ下さい。通信では、3ヶ月ごとに掲示された新規の写真を紹介します。

研ぎ澄まされた寒さが身にしみますが、年が明けるときには寒さにも慣れてくる方もいるのではないのでしょうか。「今日は0℃もあるから暖かいね」と余裕も出てきます。この3ヶ月では秋の終わりと共に、日を追うごとに冬の訪れを感じる日々を過ごしています。旅鳥を見送り、また1シーズンぶりの冬鳥の再会に胸を踊らされる毎日です。



自由にってね



2012/10/12 ダイシャクシギ

とても長くちばしですね。歩く後ろ姿はとても優雅です。見返り美人といったところでしょうか？  
撮影：長船裕紀（以下O）、酒田市大浜



2012/10/12 シロチドリ

存在に気づかず、間合いに入ってしまった。慌てて駆け出す姿は可愛いです。スタタタタ・・・  
撮影：O、酒田市大浜



2012/10/12 メダイチドリ

今シーズン最後の出会いでした。再び訪れた時にはいなかったです。越冬地まで無事を祈ります。撮影：O、酒田市大浜



2012/10/14 シマヘビ

俗名カラスヘビ、基本的にはシマヘビの黒化型のことです。ひなたぼっこをしているのでしょうか？  
撮影：安喰英幸くん、酒田市升田地区



2012/10/21 マガンとオオハクチョウ

水田で落ち穂を食べているのでしょう。特にマガンはまだ渡りの途中です。栄養補給が必要です。  
撮影：O、遊佐町



2012/10/27 クマタカ

観察ポイントで待つこと数分、視線の先下方から現れ枝に止まりました。なんと脚にはシマヘビを握っていました。撮影：O、酒田市八幡地区



2012/11/16 ハギマシコ

鳥海南麓の岩肌に単独でいました。お口の周りをよごしながら、草の実を必死に食べていました。まるで赤ちゃんです。撮影：O、酒田市（湯の台）



2012/11/29 オジロワシ

通勤途中、前方上空に何か大きな物が旋回していると思ったらオジロワシでした。庄内にもぞくぞくと海ワシが渡ってきています。やはりデカイ。撮影：O、酒田市八幡地区



2012/11/30 ミソサザイ

猛禽類調査中、目の前にやってきました。クモを食した後、背伸びをして辺りの様子をうかがっていました。それにしても細い足ですね。撮影：O、酒田市八幡地区

# 長船が行く

## レッツゴー最上川の巻

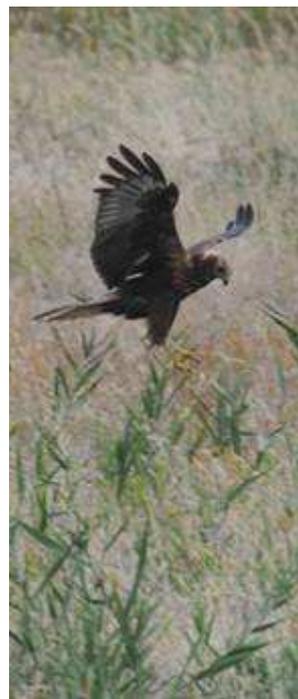


鳥海イヌワシみらい館のある酒田市には最上川という一級河川が流れており、河口を含む下流域が存在しています。両羽橋付近から河口域周辺は国指定最上川河口鳥獣保護区となっています。日本三大急流の一つですが、酒田市においては緩やかな流れで冬はハクチョウ・カモ類が多く飛来し、スワンパークといった水辺ふれあい公園があります。

11月、最上川下流のスワンパークにて早朝のハクチョウ・カモ類のカウント調査に参加したのち、最上川で探鳥をしていた時のことです。突然斜め後ろから姿を現した猛禽類。なんとチュウヒでした。双眼鏡で追跡観察していると、同視野に別の個体のチュウヒが現れたり狩りをしたりと十分に楽しむことができました。

チュウヒは干拓地や河川敷、河口域付近に広がるヨシ帯などの草地を好みます。東北地方では仏沼や蕪栗沼、八郎潟などがチュウヒの観察地として知られています。最上川も同様に下流域の河川敷には草地が形成し、秋から春にかけてチュウヒの確認があるようです。11月は北から南へ南下する個体が一時的に滞在していたようで、12月に入るとほとんど見られなくなりました。どうやら気象条件が厳しい事もあり、越冬個体はほとんどいないようです。春、北上する個体が飛来するのを待つことにしましょう。※ なお最上川において繁殖は確認されていません。

今回は私が5月～12月までに最上川下流及び最上川河口鳥獣保護区で観察した野鳥を月別に紹介します。



左上:幼鳥、左中:成鳥2個体、左下:成鳥のパーチ(止まり)、右:河川敷に舞い降りた



5月: **オオヨシキリ**  
ヨシ原といえばこれ、実によく喋る



6月: **チョウゲンボウ**  
子育ての真っ最中、ケラを持ち帰る



7月: **チゴハヤブサ**  
近年、庄内地方でも確認がチラホラ



8月: **チュウサギ**(手前)、**アオサギ**(奥)  
なぜかみんな同じ方向を見つめる



9月: **ミサゴ**  
魚を捕まえて飛んでいった



10月: **オオタカ**  
カモを狙うも狩りは失敗



11月: **ノスリ**  
止まり場所めぐって小競り合い



12月: **コハクチョウ**の群れの中に垂種**アメリカコハクチョウ**(手前)発見

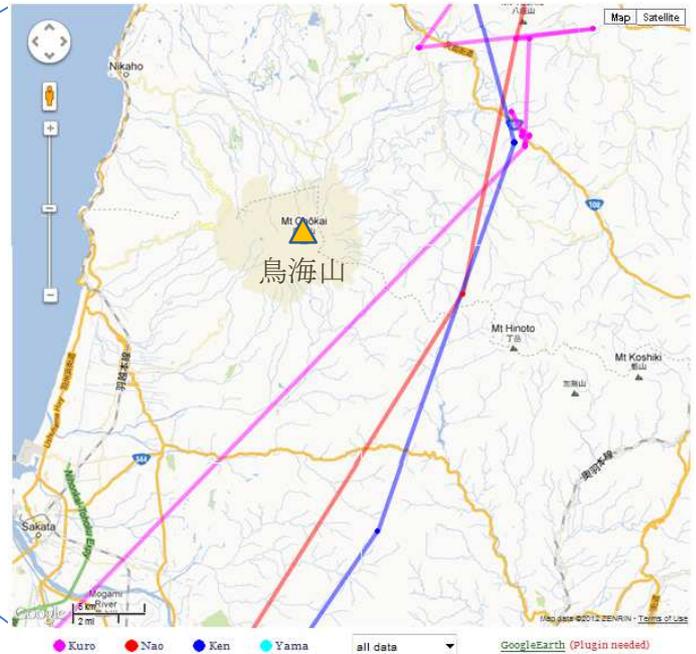
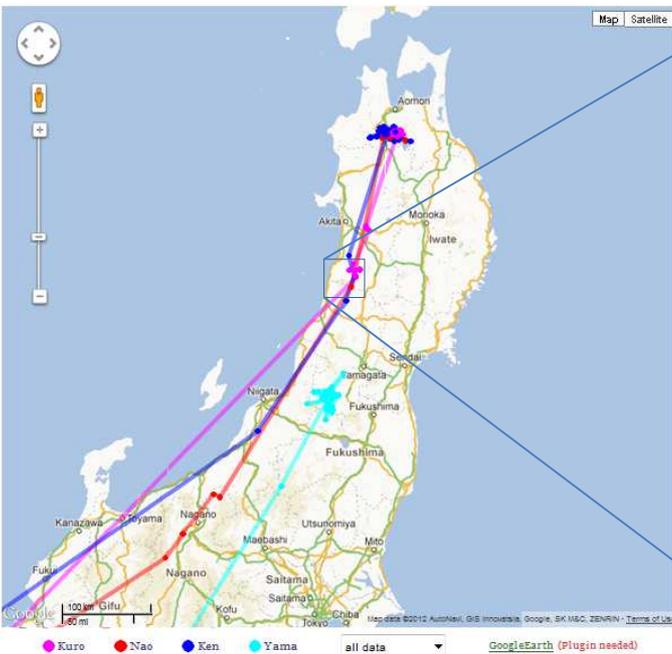
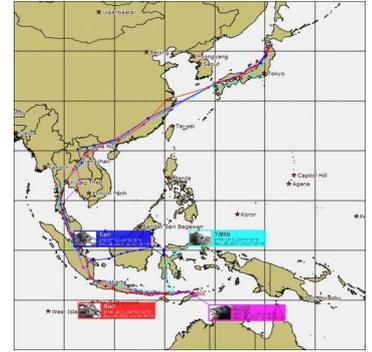
# ハチクマの渡り衛星追跡公開中

～鳥海山の東側を通過していきました～



「慶應義塾大学 SFC 研究所生物多様性研究・ラボ」の樋口広芳特任教授らが行っている研究プロジェクトで、発信器を取り付けた4個体のハチクマを人工衛星で行動追跡し、その様子がウェブ上で一般公開されています。発信器を取り付けられたハチクマの出発地点は青森県から Kuro、Nao、Ken の3個体、山形県から Yama の1個体で、なんと青森県を出発した3個体はい

ずれも鳥海山の東麓付近を通過したと考えられます。同様に9月を中心にいくつものハチクマを鳥海山周辺で観察しましたので、比較的渡りのルートになっていることがうかがえます。※線のひかれた位置は通過（飛翔）したとは限りません。点の位置は正しい位置を示していると思われませんが（誤差はあり）、線は点と点を結んだものにすぎないので参考程度に考えましょう。



公開されている地図情報から、日本で繁殖期を過ごしたハチクマたちは、本州（四国）から九州各地方を経て東シナ海を渡り、10月11日には4個体すべてが日本の領海内から中国大陆に上陸しました。その後さらに南下し、東南アジアへと向かった様子がわかりました。そして12月26日現在、4個体ともインドネシア付近にいるようです（Nao、Ken、Yamaがインドネシア、Kuroが東ティモール）。往復2万キロの旅を経て、2013年に再び日本列島へと戻ってくるのを、楽しみにしています。



鳥海山麓にて

写真：高橋雄成



